

温室効果ガス排出量の推移

		温室効果ガス排出量 (千t-CO ₂)					
		2014	2015	2016	2017	2018	2019
二酸化炭素	産業部門	3,053	2,931	3,019	2,761	2,928	2,720
	運輸部門	1,564	1,615	1,677	1,630	1,556	1,608
	家庭部門	2,070	1,973	1,915	1,905	1,746	1,451
	業務部門	1,753	1,687	1,704	1,642	1,469	1,434
	エネルギー転換	355	384	386	351	354	281
	工業プロセス	308	330	330	332	337	342
	廃棄物	254	252	252	252	212	212
	計	9,356	9,172	9,283	8,873	8,601	8,047
メタン		127	124	121	120	119	119
一酸化二窒素		178	186	177	181	173	176
代替フロン類		274	303	325	338	363	385
総排出量		9,936	9,784	9,906	9,512	9,256	8,728
森林吸収源		—	—	△ 818	△ 810	△ 788	△ 796
総排出量 (森林吸収源を差引く)		9,936	9,784	9,089	8,702	8,468	7,932

※四捨五入の関係で計算が合わない場合があります。
 ※排出量の算定にあたっては、電力排出係数については基礎排出係数を使用しています。
 ※森林吸収源は、林野庁提供データを使用しています。
 ※県内排出量の算定に使用している国の「都道府県別エネルギー消費統計」の数値が見直されたことから、県内排出量を見直ししています。

- (注) 産業 : 農林水産業、鉱業、建設業、製造業におけるエネルギー消費量
 運輸 : 自動車、鉄道、船舶、航空機におけるエネルギー消費量
 家庭 : 家庭におけるエネルギー消費 (電気、ガス、灯油等)
 業務 : 業務用ビル等におけるエネルギー消費 (電気、ガス、灯油等)
 エネルギー転換 : 電気事業者 (火力発電所)、ガス事業者の自家消費エネルギー
 工業プロセス : 石灰石の消費
 廃棄物 : 一般廃棄物および産業廃棄物の焼却 (食物くず、木くず等のバイオマス起源を除く。)

コラム CO₂ フリーエネルギー生産県の特徴

本県は、原子力発電により県内電力需要量を大きく上回る電力を関西に供給し、国の地球温暖化対策に貢献してきたところです。

しかし、原子力発電や再エネ導入によるCO₂削減効果は、生産地である本県の排出量にはほとんど反映されません。

脱炭素を実現するためには、各地域が再エネ導入拡大等に積極的に取り組んで行く必要がありますが、その取組内容が的確に反映できるような新たな算定方式や指標などが必要と考えます。

県内電力需要量・総発電量

[単位: 億 kWh]

	2019年	2020年	2021年
県内 電力需要量	77	75	77
県内 電力総発電量	357	250	446
原子力発電	267	153	336
水力発電	16	17	17
風力・太陽光発電	0.6	0.7	0.8
火力発電	73	79	92

資料: 電力調査統計 (2019,2020,2021)